# United Nations Development Programme

国連開発計画（UNDP）

*Empowered lives.*
*Resilient nations.*

人々を力づけ、国々をたくましく

Empowered lives. Resilient nations.

# 国連開発計画（UNDP）

## 国連システムのグローバルな開発ネットワークとして

### UNDPの概要

国連開発計画（UNDP）は、1966年、2つの国連技術協力機関の統合で発足しました。国連総会と国連・経済社会理事会の管轄下にある国連機関の一つで、ニューヨークに本部があります。現在、各国政府、国連機関、非政府組織（NGO）、企業などと協力しながら、177の国・地域でプロジェクトを実施しています。各国の人々と、グローバルな課題や国内の課題に対し、それぞれの国に合った解決策が見出せるよう取り組んでいます。国や人々の能力開発では、UNDPの幅広い分野における知見とパートナーシップが役立っています。

UNDPは、開発の目的は単に所得を向上するだけではなく、人が人としての尊厳にふさわしい生活を送るべく支援をすることであるという「人間中心の開発」を提唱しています。現在では、この「人間開発」に対する考え方が、国際社会に幅広く受け入れられ、開発援助における基本理念の一つにもなっています。また、2015年を達成期限とするミレニアム開発目標（MDGs）の達成、ポスト2015開発アジェンダ（2015年以降の開発目標）の策定においても、重要な役割を果たしています。

**ヘレン・クラーク**
国連開発計画（UNDP） 総裁

ヘレン・クラークは2009年4月に、女性として初めてUNDP総裁に就任しました。開発に関わる国連システムの32の機関からなる「国連開発グループ」の議長も務めています。UNDP総裁就任前は、ニュージーランドの首相を3期（1999－2008年）務めました。

UNDPは2014－2017年の戦略計画で、ビジョンとして「貧困の撲滅、不平等と排除の大幅な是正を同時に達成」を掲げ、以下の3つの重点活動分野、7つの成果目標を定めています。

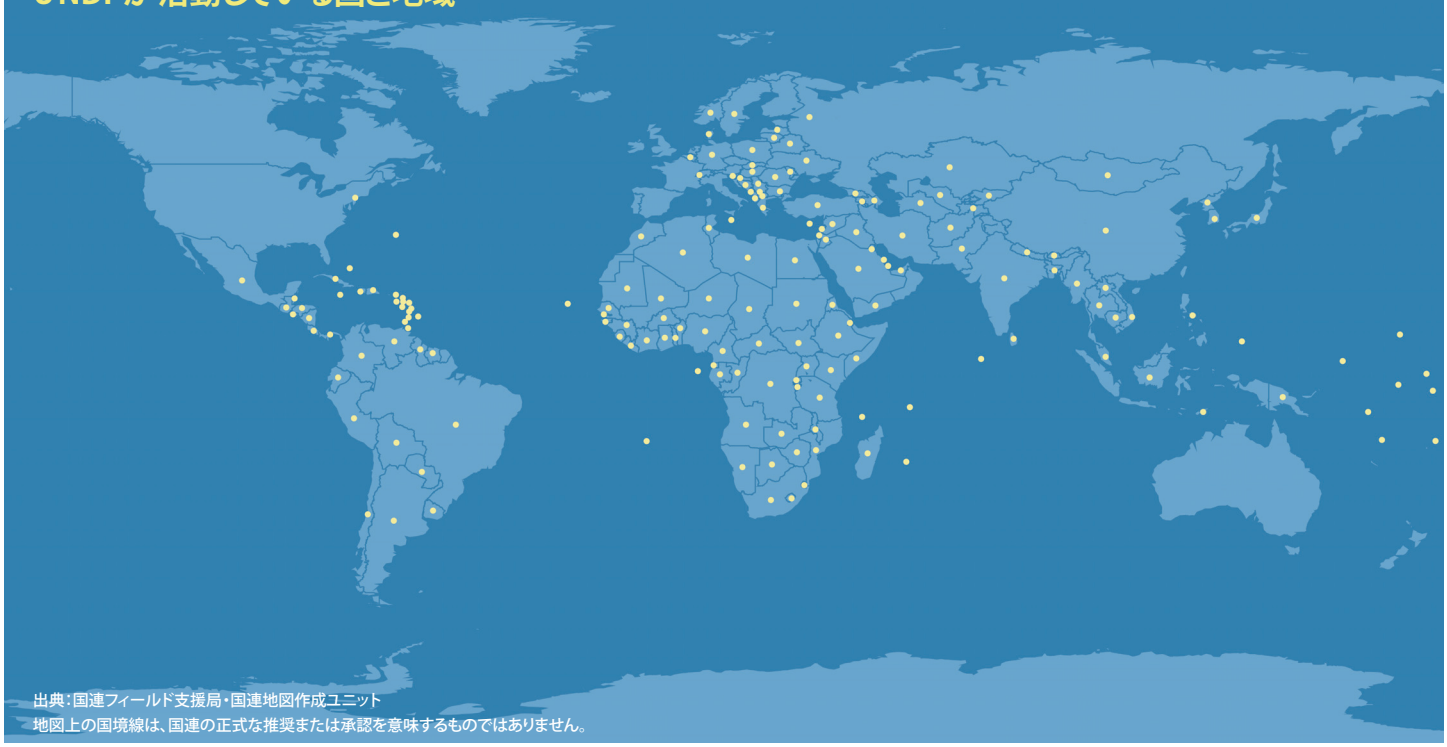
**3つの重点活動分野：**

1. 持続可能な開発プロセス
2. 包摂的で効果的な民主的ガバナンス
3. 強靭な社会の構築

**7つの成果目標：**

1. 貧困層や排除されている人々に雇用と生計をもたらす生産力の拡大をはかりつつ、包摂的かつ持続可能な成長と開発を実現する
2. より強固な民主的ガバナンス制度により、発言機会、開発、法の支配、説明責任を求める人々の期待に応える
3. 各国が基礎的社会サービス普及の着実な実現に向け、組織や制度を強化する
4. ジェンダー不平等の是正と女性のエンパワーメントの促進において早急な進展を実現させる
5. 各国が紛争の可能性を低減し、気候変動等による自然災害のリスクを軽減できるようになる
6. 紛争・災害後、早期復旧・復興と持続可能な開発プロセスへの速やかな回帰を実現する
7. 開発に関するあらゆるレベルの議論と行動において、UNDPの理念・方針に基づき、貧困、不平等と排除への取り組みを優先させる

**UNDPが活動している国と地域**



出典：国連フィールド支援局・国連地図作成ユニット
地図上の国境線は、国連の正式な推奨または承認を意味するものではありません。

# UNDPと日本 —UNDPの活動は日本の協力によって支えられています

UNDPが世界の開発課題解決に向けて取り組むためには、各国政府からの資金拠出だけではなく、政府、政府系開発援助機関、民間セクター、市民社会、教育・研究機関等との連携が欠かせません。UNDPは、1)グローバルなネットワーク 2)国連機関としての中立性 3)国連システム全体の調整機能 4)多岐に渡る取り組みと政策提言を合わせた包括的支援体制 5)専門知識と長年の現場実績などを生かし、これらのパートナーと共に持続可能な人間開発を推進しています。日本はUNDPにとって非常に重要なパートナー国で、開発現場でのプロジェクト実施、政策提言、国際会議の開催など、様々な機会に協働しています。

## 日本政府との連携

日本の政府開発援助(ODA)は、2国間援助だけでなく、国際機関を通じた援助も重視しています。2014年に見直しがされたODA大綱でも国際諸機関等との連携などを掲げています。日本と重点分野を広く共有するUNDPは、日本政府からの拠出により平和構築や民主的ガバナンス等の分野で専門知識と現場実績を生かした効果的な開発活動を展開しています。2011年からは日本・UNDP戦略政策対話を定期的に開催し、UNDPと日本の共通の開発課題について大局的な議論をし、連携方針を確認し、プロジェクト実施をしています。UNDPは「アフリカ開発会議(TICAD)」など、日本政府主導の様々な国際会議を共催しています。また、UNDPと国際協力機構(JICA)は2009年に連携強化のための覚書を締結し、定期協議を開催すると共に、世界各地の開発現場で様々な連携プロジェクトを展開して成果をあげています。

## 民間セクター等との連携

UNDPは民間セクターとの連携も強化し、貧困層を生産者や消費者、労働者としてビジネスに取り込むことで、商業的利益と開発利益の両立を図る「インクルーシブ・ビジネス」を促進しています。日本企業と共にアジア、アフリカ等において共同プロジェクトを実施し、安全な水へのアクセスや再生可能エネルギーの普及を促進してきました。また民間企業の社会的責任(CSR)活動がMDGs達成に寄与するように支援しています。

さらに、イベント、コンサルテーション等を通じた市民社会組織との連携、シンポジウムやUNDPの出版物等を通じた教育・研究機関との連携にも力を入れています。

写真左上:人間開発報告書2014国際公式発表を18年ぶりに日本で開催(2014年7月、東京)
写真右上:第5回アフリカ開発会議(TICAD V)の模様(2013年6月、横浜)
写真左下:世界60か国以上で開催された「ソーシャルグッド・サミット2014」の東京ミートアップの模様(2014年9月)
写真右下:日本の民間企業と連携してケニアで実施した、緩速ろ過装置を活用した「浄水・農業振興ビジネスモデル」開発プロジェクト(2013年)

## ミレニアム開発目標(MDGs)の8つの目標

**ミレニアム開発目標(MDGs)とは:**

2000年9月、ニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の国連加盟国代表が、21世紀の国際社会の目標として、より安全で豊かな世界づくりへの協力を約束する「国連ミレニアム宣言」を採択しました。この宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標をまとめたものが「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)」です。MDGsは国際社会の支援を必要とする課題に対して2015年までに達成するという期限付きの8つの目標、21のターゲット、60の指標を掲げています。

## 人間開発報告書(HDR)

UNDPは1990年から人間開発報告書(HDR)を世界各国で発刊しています(日本語版は1994年から発刊)。毎年、時代に先駆けて「ジェンダー」や「気候変動」や「強靭な社会づくり」など開発課題を提議し、各国の豊富な実証データを分析しながら、政策提言をしています。HDRでは1人当たりの国民総生産(GDP)、平均寿命、就学率などに基づき指数化した「人間開発指数」を発表するなど、世界各国の豊かさをGDP以外で数値化し、統計資料としても幅広く活用されています。

### 人間開発報告書ウエブサイト

http://hdr.undp.org(英語)
http://bit.ly/undphdr(日本語)

### 人間開発報告書日本語版の販売について

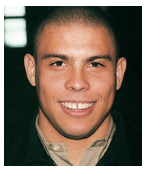
1994年版-2006年版 UNDP駐日代表事務所(TEL:03-5467-4751)
2007/2008年版以降 CCCメディアハウス(TEL:03-5436-5701)

# UNDP親善大使

国連開発計画（UNDP）は、日本の俳優・紺野美沙子氏を含む10人をグローバルな親善大使として任命しています。親善大使は、世界各地でUNDPや開発課題のアドボカシー活動に協力しています。ロナウド選手とジダン選手が中心となり始まったサッカー・チャリティー試合「貧困との闘い（Match Against Poverty）」はこれまでに全世界で計11 回開催されています。

## 紺野美沙子（日本）Misako Konno

1998年10月、UNDP親善大使に任命。これまでに、カンボジア、パレスチナ、ブータン、ガーナ、東ティモール、ベトナム、モンゴル、タンザニア、パキスタンを公式訪問しました。また、2011年には東日本大震災を受け、東北の被災地を訪問しました。ほかにも、途上国における開発支援の活動や必要性を伝えるため、毎年全国各地の小・中学校やイベントで講演、朗読活動をしています。2008年にはUNDP親善大使としての10年間の活動を綴ったエッセイ『ララ親善大使』（小学館）を出版、2009年6月には長年の国際協力分野における功績がたたえられ、外務大臣表彰を受けました。



## ロナルド・ルイス・ナサリオ（ブラジル）
Ronaldo Luis Nazário

元ブラジル代表のサッカー選手。サッカーを通したMDGsのアドボカシーキャンペーンで中心的役割を果たしています。2000年２月に親善大使に就任。

## アントニオ・バンデラス（スペイン）
Antonio Banderas

世界的に活躍する俳優。UNDP等が主催した写真コンテストで審査員を務めました。2011年の「アフリカの角」の食糧危機や2012年国連持続可能な開発会議（リオ+20）の際には、動画メッセージを発信。2010年３月に親善大使に就任。

## ジネディーヌ・ジダン（フランス）
Zinedine Zidane

元フランス代表のサッカー選手。サッカーを通じたMDGsのアドボカシーキャンペーンで中心的役割を果たしています。2011年にはマリを公式訪問しました。2001年３月に親善大使に就任。

## マルタ・ビエイラ・ダ・シルバ（ブラジル）
Marta Vieira da Silva

ブラジル代表の女子サッカー選手。2006-2009年、４年連続でFIFAの女子最優秀選手賞を受賞。2011年にはシエラレオネを公式訪問し、女性たちを激励しました。2010年10月に親善大使就任。

## ホーコン・マグヌス王太子（ノルウェー王国）
HRH The Crown Prince of Norway

ノルウェー王国王太子。UNDP親善大使として数多くの途上国を公式訪問し、近年ではハイチやネパールなどを訪れました。人間開発報告書室の業務にも貢献し、2007/08年の人間開発報告書の諮問パネル、2007年人間開発賞の委員を務めました。2003年10月に就任。

## イケル・カシージャス（スペイン）
Iker Casillas

スペイン代表のサッカー選手。2010 FIFA ワールドカップで優勝。2011年、日本の東日本大震災を受けて、動画メッセージを発信しました。2011年１月に親善大使に就任。

## ディディエ・ドログバ（コートジボワール）
Didier Drogba

コートジボワール代表のサッカー選手。ロナウド、ジダンと共に、サッカーを通じたMDGsのアドボカシーキャンペーンに参加。2014年のFIFAワールドカップでは、マラリア撲滅のアニメ動画に出演。2007年１月に親善大使に就任。

## コニー・ブリットン（アメリカ）
Connie Britton

米国を代表する女優の１人。エミー賞を４度受賞した経験を持ちます。長年、貧困削減および女性の権利拡大を積極的に支援。2014年４月に親善大使に就任。

## マリア・シャラポワ（ロシア）
Maria Sharapova

プロテニス選手。両親がチェルノブイリ原子力事故を受けて故郷を離れた過去を持ち、2010年にはシャラポア財団を通じて個人として25万ドルを寄付。2011年４月には同事故から25年を受け、動画メッセージを発信。2007年２月に親善大使に就任。

## ■ UNDP駐日代表事務所

UNDP駐日代表事務所は1979年に設立されました。主に、1）UNDPの主要ドナー国である日本政府や国際協力機構（JICA）との関係強化、ニューヨーク本部や各国事務所との連絡調整業務　2）人間開発報告書や年次報告書など主要な出版物の日本語版作成、イベント等を通じた広報活動　3）日本における市民社会や民間セクターとの連携推進をしています。

## ■ 世界で活躍する邦人職員

UNDPでは2014年10月現在、世界中で約8000人のスタッフが勤務しています。専門職以上の日本人職員は76人で、そのうち15人はジュニア・プロフェッショナル・オフィサー（JPO）です。邦人職員のうち16人が幹部職を務めています。


UNDP

*Empowered lives.*
*Resilient nations.*

国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 UNハウス8F
TEL：03-5467-4751 ／ FAX：03-5467-4753
ウェブサイト：**http://www.jp.undp.org**
：**https://www.facebook.com/UndpTokyo**
：**https://twitter.com/UNDP_Tokyo**



©UNDP 2014年12月　Photo©UNDP ただし、表紙写真左上は©Sylvain Liechti / United Nations、右上は©Giacomo Pirozzi / UNICEF、中央下は©Shinji Shinoda / UNDP Tokyo